

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	菱田春草没後百年記念特別展	会計	一般会計	事業No.	819	施策順No.	27-015	
		事業種別	政策・その他	予算科目	10-5-6-11-0			
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり			課等名	美術博物館			
施策	27 文化芸術の振興			事業期間	開始	21	終了	23

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	1 飯田・下伊那広域圏の圏域住民						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		圏域住民数(人)			170844	169503	169106	
	意図	没後百年記念特別展を通じて、当地出身の日本画家・菱田春草に対する関心を高め、また優れた芸術作品に触れる機会を提供する。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	特別展の観覧者数(延べ人数)						12000	A
	出品交渉				40	42		
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	名品を中心に40点以上の出品交渉を実施した。展覧会の会期が23年9月からのため出品可否の決定がなされていない所蔵先もみられるが、点数的には想定数を確保している。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	飯田に生まれた菱田春草は、明治44年(1911)に満36歳という若さで没したが、日本画の近代化を推進しつつ多くの名作を手がけた先覚者として広く知られた作家である。この春草の名作に数多く触れる機会を提供して、飯田においてさらなる文化芸術の振興を促す。また春草の生涯に接する機会も提供して春草を市民の誇りとなし、それを地域への愛着と自信の育成へと結びつけたい。平成23年(2011)は春草が没して百年という絶好の機会である。この機を逃がさず、飯田市民に対して菱田春草の芸術とその人物像を強く紹介したい。そのため春草の名品を陳列する特別展を開催し、また春草の生涯をわかりやすく解説したガイドブックを刊行し、さらに春草と彼が生きた時代とを紹介する講座・講演会や各種イベントなどを開催する。そしてこれらを通じて、春草の顕彰をひとつのムーブメントとして盛り上げてゆく。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1、作品の出品交渉 2、内容調整	1 出品交渉	1 42点
23年度実施計画	1、展覧会の開催(事業費 14,333千円) 菱田春草没後百年記念特別展「春草晩年の探求ー日本美術院と装飾美ー」 平成23年9月3日(土)～10月2日(日) 春草と関連作家の名品約40点を紹介する。作品は代表作クラスに絞り、六曲屏風など大型作品を中心に、主として外部より借用して展示する。 2、関連事業(事業費 1,000千円) 1)菱田春草ガイドブックの作成 2)連続講座、小中学校／公民館向け出前講座の実施(事前) 3)特別講演会の実施(会期中) 4)小中学生向け解説会の実施(会期中) 5)春草忌(9/16)・春草生誕日(9/21)記念事業の実施(会期中) 6)その他 ドームシアター用に春草の絵画を紹介する番組を制作する。(ドームシアター運営事業)	1 出品点数 2 図録 3 ガイドブック 4 連続講座・出前講座 5 特別講演会 6 展示解説会 7 記念事業	1 約40点 2 1,000冊 3 1,500冊 4 20回 5 1回 6 20回 7 2回

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項	平成22年度は、特別展示事業の準備費を割り当て
		県支出金					
		起債					
		その他					
		一般財源	0		18,126		
		計(A)	0	0	18,126		
		正規職員所要時間					
		臨時職員等所要時間					
		人件費計(B)			0		
		トータルコスト A+B			0		

4 事業に対する市民や議会の意見

平成23年度は菱田春草の没後百年にあたる年であることから、市民や春草ファンの方々からは記念行事の開催に関する期待が大きい。橋本地区では春草生誕地の整備を求める声が高まっており、あわせて大規模な展覧会の開催を望む声が寄せられている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分		具体的な取組事項	
21年度決算と比べての効果額(千円)		効果額説明(算出根拠)、特殊要因	

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	1いつでも誰でもどこでも気軽に親しむ 2自己表現の機会が得られる 3文化活動を主体的に担う	施策の成果指標又はムトス指標	観覧者数
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	春草の没後百年を機に、数々の名品に触れる機会として、また春草作品の認知度を高める機会として、特別展の企画立案と出品交渉を実施した。その結果、複数点の名品について、出品の承諾をいただいている。		
	後期に向けた課題	春草の名品に触れる機会である本展覧会において、多くの市民に観覧いただき、かつ春草作品の認知度向上がなされるように、講座・講演会やガイドブックの出版など様々な方法を検討していく。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	菱田春草をはじめ、横山大観・下村観山・木村武山の作品について、展覧会出品作や代表作などの名品を中心に出品交渉をおこなった。		
	後期に向けた課題	春草作品の認知度向上、および特別展に際しての観覧者数増加を図るため、春草の画歴や作品の見どころを紹介する講座を数多く計画する。また春草作品のガイドブックを作成し、館蔵品を中心に春草作品の紹介につとめる。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	遠隔地からの作品借用を控え、所蔵先を集約することによって輸送費の軽減を図った。		
	後期に向けた課題	新聞社等に共催・後援を依頼して、広報宣伝費の縮小を図る。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	菱田春草の顕彰は美術博物館のひとつの大きな柱である。春草の没後百年はその顕彰において大きな節目であり、飯田市が特別展を開催することは適切である。		
	後期に向けた課題	特別展の開催に際して観覧者から観覧料を徴収することは、受益者負担として適切である。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	各地の美術館と連携を取り合い、類似点覧会情報の照会や出品作品の調整などを実施した。		
	後期に向けた課題	市内の各公民館と連携を取り、各地での出張講座の開催をおこなう。また春草顕彰団体と連携を取り、特別展会期中の関連イベントなどへの協力を仰ぐ。		
全体を通じて	4年間の振り返り	菱田春草をはじめ近代日本画家の展覧会は、毎年わたって各地で頻りに開催されており、作品確保には難航する例が多かった。しかし今回は他館との作品調整が比較的スムーズに進み、多くの名品を確保することができた。		
	後期に向けた課題	平成23年度は春草没後百年という大きな節目であることから、特別展の開催に留まらず、各種の講座・講演会や関連イベントの開催、ガイドブックの出版などを実施して、市民における春草作品の認知度向上を目指す。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	--	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------